

崔書勉先生と私『崔書勉先生と金山大使』

社会福祉法人心の家族 理事長

韓国木浦名誉市民

韓国江南大学社会福祉名誉博士

韓国全州大学文学名誉博士 尹 基（田内 基）

生きているときに志を共にする友はいる。しかし、死後も日韓親善の志を共にしてお墓を隣に作るという話は聞いたことがない。崔書勉先生は、韓国京畿道坡州にあるカトリック墓地の中にある崔先生一家の墓地に金山大使のお墓を作り、守っておられる。

二〇一三年、私は崔書勉先生と一緒に、韓国京畿道坡州にある故金山政英駐韓日本大使の墓地を訪ねた。崔先生は金山大使の話聞かせてくれた。大使は生前、日本にとって最も大切な国は米国や中国ではなく韓国であるとわれ、出世の道を捨て過酷と日本のために働くようになったこと。そして、崔先生は私にこう言った。

「尹君、あなたは両性主義者だ。」

突然の言葉に、私は驚き、笑ってしまった。先生の言う両性とは、姓名の姓だ。一行も皆、一緒に笑った。「そうではないか？あなたは韓国姓「尹」、日本姓「田内」を持っている。だから両姓ではないか？」

崔先生は笑わずに続けた。

「私は先が短い。これからは、あなたがこの墓を守るんだ。」
そうだ、金山大使は共生福祉財団の理事長を引き受け、韓国の家なき子らを愛してくださった日本人の一人で、恩人である。

ある日、別所吾郎駐韓日本大使に、先輩が眠っているお墓に行きましようとお誘いし墓地に案内した。そばには崔先生のご母堂のお墓があり、そこには、次のように書かれている。

「洪マリアの霊前にて」

一生涯を苦難の中にすごされた貴方

どんな痛みの中にも

ひたすら一人息子だけを見守って

微笑んでくださった

その人品は唯ただ優しく善良と褒め讃えられてはいたが

実は世間のあらゆる辛酸の荒波を嘗めてこられた

その中をここまで育ててくださった貴方の恩恵

いくら報いても

決して報いきれない貴方の恩恵

逝かれた今

誰にそれを報いればよいのか

この肉も骨もそのすべてが貴方が下さったもの

貴方を思うと道行くときは立ち止まり

寝ていても目が覚めます

冥福を祈るこの心

笑って受けてください

一九七三年四月二十二日 一周忌に 一人息子 崔

共生園の子どもたちは墓前に歌を捧げ、崔先生も別所大使も、韓日親善協会の金守漢先生も秋圭昊駐英大使も、感動した。最近、韓国と日本の感情のもつれが尋常ではない。金山大使が生きておられたら、崔書勉先生はどんな話をされるだろう。



写真は、現在、国連大使の別所吾郎前駐韓日本大使を案内して
金山先生の墓参りをしたときのもの。

前列左から二番目崔書勉先生、別所吾郎大使、右端が私。

